

はじめに

- ここからの説明は、専門技術と経験のある方を対象にしています。
- 希望する取り付け位置に対して、コードの長さが十分であることを確認してください。
- 組み合わせる製品によって使用できない場合があります。組み合わせる製品の取付説明書も合わせてご覧ください。
- 不明な点はお買い上げ店またはインフォメーションセンターにお問い合わせください。
- 仕様及び外観は、改良の為に予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、実物と印象が相違する場合があります。

1. 取り付ける

- 1 車を安全で平坦な場所に停める。
パーキングブレーキをかけ、エンジンキーを抜く。
おおよそのレイアウトを決め、コードの長さが十分か確認する。

- 2 取り付ける。



警告

車体に穴を開ける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。



警告

取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。



注意

本機天面に配置されたダイキャストプロテクターへは、加重・衝撃を加えないでください。破損・破壊の原因になります。

- 本機の実取り付けは、必ず平型ブラケット（付属品）を使用して、しっかりと固定してください。

- 1 車への取り付け場所を設定します。

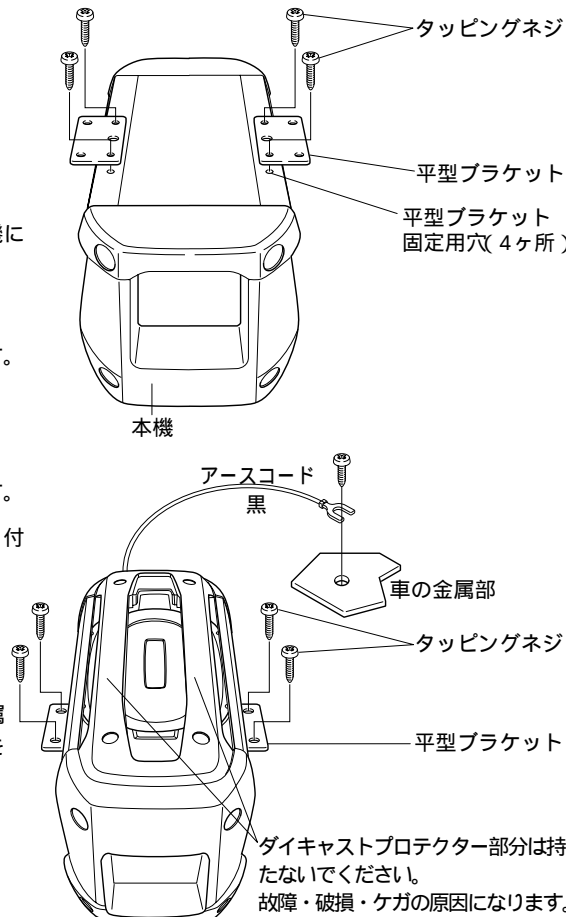
- 2 タッピングネジで平型ブラケットを本機に取り付けます。

- 3 車への取り付けネジ位置に印をつけます。

- 4 ドリルでφ3mm以下の穴を開けます。

- 5 タッピングネジで本機を車に固定します。

- 6 本機のアースコードを車の金属部に取り付けます。



2. 接続する

- 1 はじめに

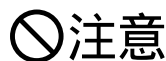
- 接続は、車の電装系が理解できる知識が必要です。曖昧な理解で作業を進めると車体に重大な影響を与える場合がありますので、専門業者に依頼することをお奨めします。
- 接続は「奥までしっかり差し込んで」ください。
- 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻いてください。
- 関連製品の接続に関する説明書も合わせてご覧になり、作業を進めてください。

- 2 バッテリー c 端子を外す。



- コンピューターが装着されている車は、バッテリーの c 端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 一部の車種（外国車など）では、バッテリーの c 端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。詳しくは、ディーラーへお問い合わせください。

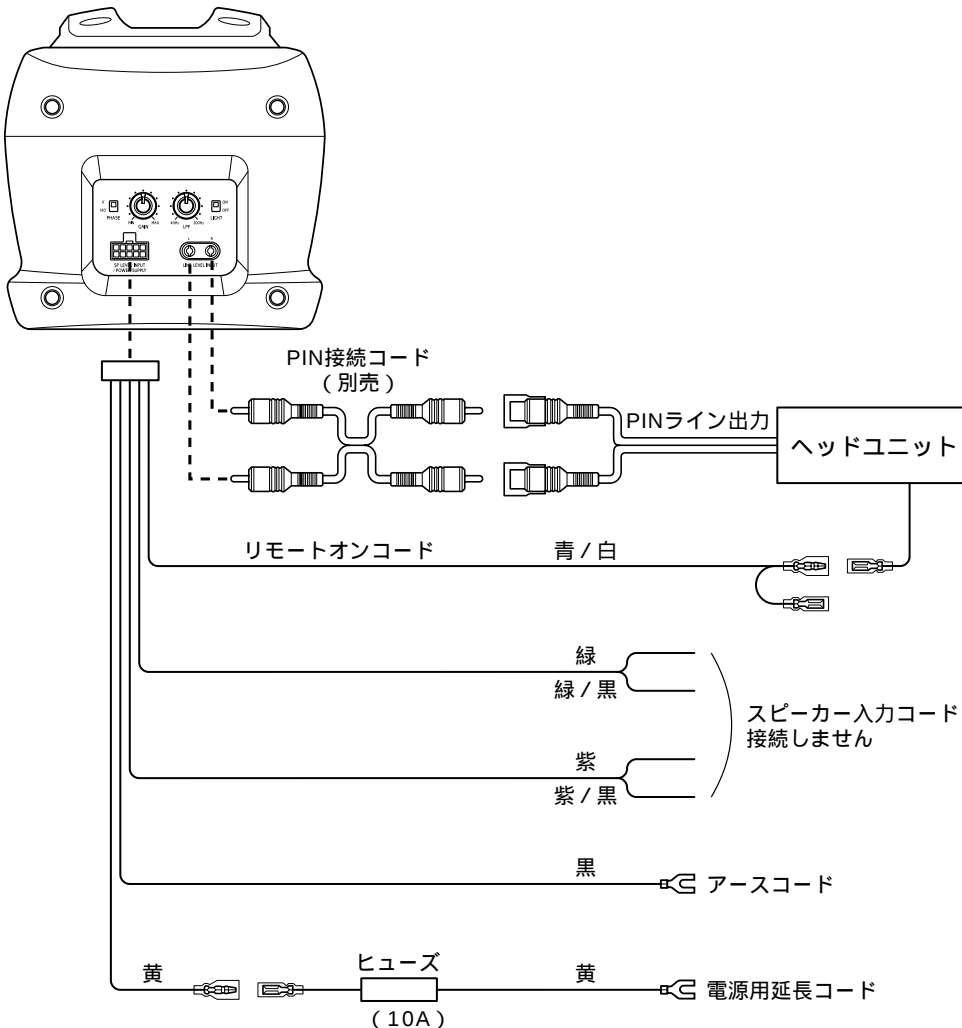
- 3 接続する。



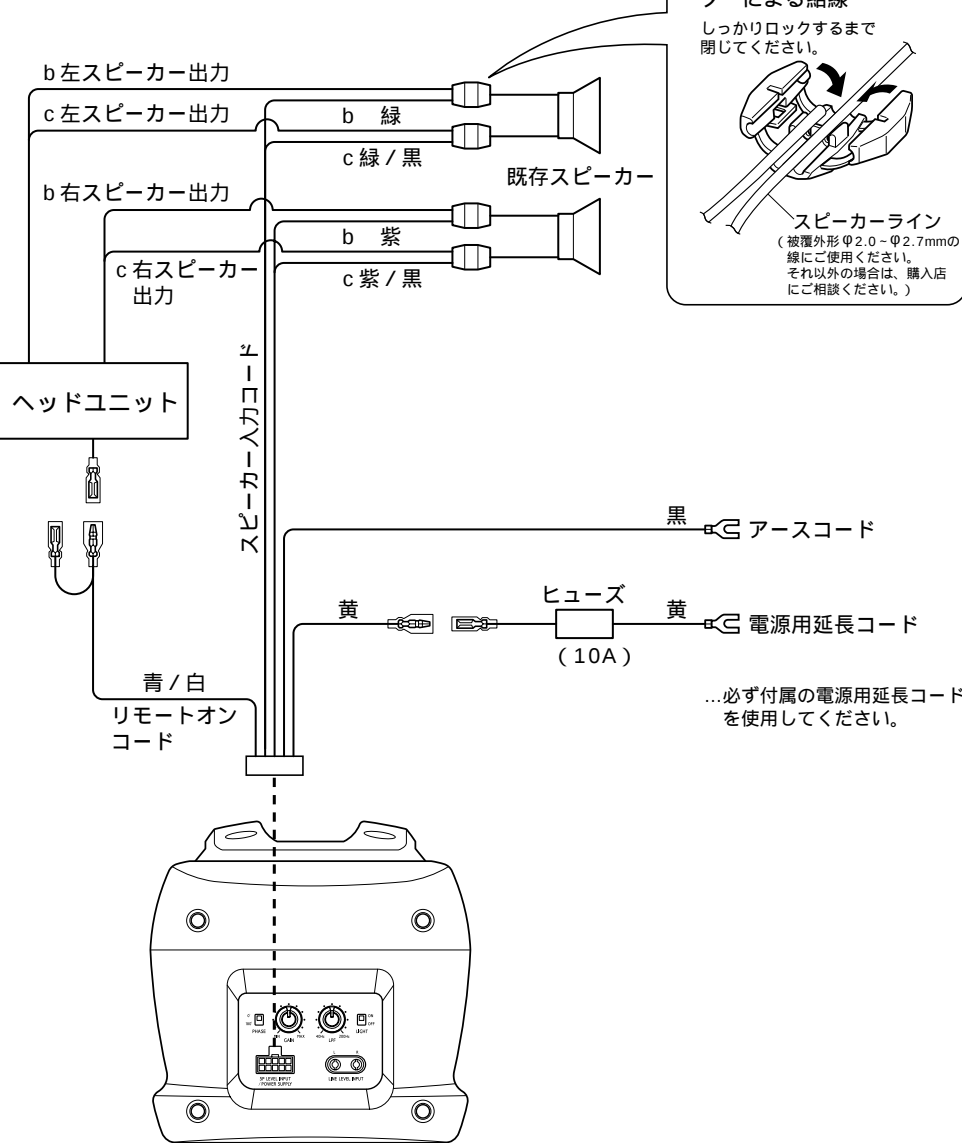
注意

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。

- PIN入力接続の場合



- スピーカー入力接続の場合



コード名称	補足説明
リモートオンコード	ヘッドユニットなどのリモートオンコードと接続してください。 ・ヘッドユニット側などにリモートオンコードがない場合は、車のACC電源コード（ACCポジションで電源が供給されるコード）に接続してください。
アースコード	車のボディーの金属部分に確実に接続してください。
電源用延長コード	常にバッテリーの b 電源が供給されているところに接続してください。



- スピーカーコードの c 側が左右共通になっている車両には、使用できません。
- スピーカーのインピーダンスは3.2～8Ωのものをお使いください。
- 車両雑音から守るために
・アースコードを車体の金属部分に確実につなぐ。
・電源用延長コードとPINコードは離す。
・本機や本機からのコードを車両配線から離す。
・ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離す。
- スピーカー入力コードとピン入力ジャックの両方に同時に接続しないでください。
サブウーハーの効果が得られないばかりでなく、組み合わせる製品の故障の原因となり、危険です。

3. 確認する

- 1 コード類を固定する。



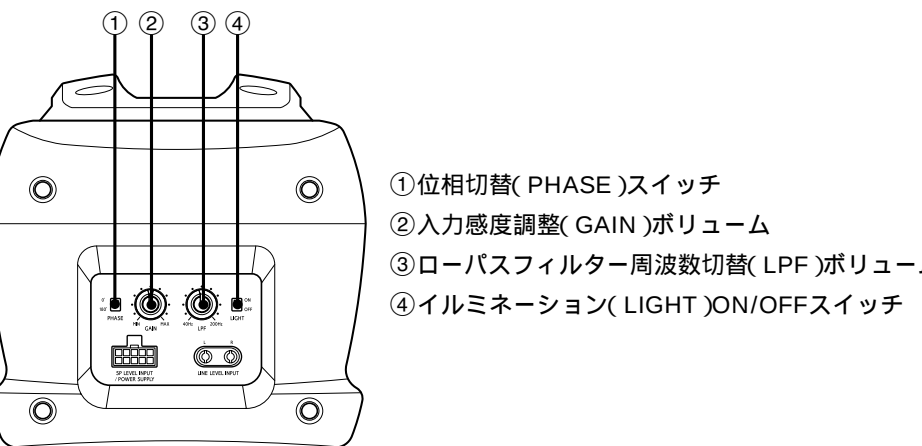
コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。

- 2 バッテリー c 端子を接続する。

- 3 エンジンキー／カーオーディオ電源をONにして、本機の動作が正しいこと（音が正しく出ているかなど）を確認する。

- 4 ホーン／ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

4. 調整する



調整を始める前に入力感度調整ボリューム位置がMINになっていることを確認してください。ボリュームがあがっているとスピーカーに過大な入力が入り、破損する恐れがあります。

1. 入力感度調整ボリュームがMIN、PHASEが0°、LPFがセンターになっていることを確認してから、システムの電源をオンにしてください。
2. ヘッドユニット等のTRE、BASSをセンターの状態にして、ボリュームを普段聴いているレベルにあわせてください。この時の音楽ソースとしては、いつも聴いているものを使うと調整がやり易いでしょう。
3. 次に、SWE-1400の入力感度調整ボリュームをMINから徐々に上げていきます。システム全体で、バランスがとれる位置まで上げてください。この時、入力感度を上げすぎると音が歪むことがあります。ヘッドユニットのボリュームが上がりにすぎても音が歪みます。他のスピーカーからも歪みが出ていないかどうか、確認しながら調整を進めてください。スピーカーシステム全体が歪んでいるような時は、ヘッドユニットのボリュームを絞ってください。
4. 入力感度調整が済んだらローパスフィルター周波数切替(LPF)ボリュームを調整し、他のスピーカーとのバランスが最良となるポイントを探してください。（80Hzを基準として調整することをお勧めします。）
5. LPFが変わると聴感上、音圧も変化します。3. 4. の手順を繰り返し最良のポイントを見つけてください。
6. 最後にPHASE(位相)の選択をします。運転席に座った状態で0°(正相)と180°(逆相)を切り換えてみて、良い方を選びます。スピーカーの取付位置、車の形状によっては180°(逆相)の方が、良好な場合もあります。



- 安全のため、走行中は必ず本機のイルミネーションON/OFFスイッチをOFFにしてください。
- AM放送を受信中にイルミネーションを点灯するとノイズが発生する場合があります。その場合には、本機のイルミネーションON/OFFスイッチをOFFにしてください。

注意

当製品には、製品保護のために過大入力を検知する回路が組み込まれています。この保護回路が作動した場合、当製品から音が出なくなる仕様となっています。

保護回路が作動し、音が止まってしまった場合は、ヘッドユニット(CDデッキなど)のボリュームを下げた後、一旦電源を落とし(POWERスイッチを押してOFFにする)しばらく経ってから、改めて電源を入れる(POWERスイッチを押してONにする)と復帰します。

なお、頻繁にこの状態になってしまうことを防ぐためにも、電源を改めて入れた際にこの説明書を参照しながら、音量の調整を行ってください。